

中学校 道徳 部会

部会長名 添田町立添田中学校 校長 長畑 理恵
実践者名 添田町立添田中学校 教諭 長野 友希
授業者名 添田町立添田中学校 教諭 山崎 加菜

1 研究主題

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道徳科の授業づくり
～自他の考えを大切にする発問・話し合いの設定を通して～

2 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

日本の子供たちは、諸外国に比べ自己肯定感が低い傾向にあると指摘されている。本校でも、様々な調査や日々の言動を見てみても、自分自身の良さや価値を見出せず、自己肯定感が低い生徒が多いと感じている。そこで、自己を見つめる学習を通して、今現在のありのままの自分を受け入れ、自尊感情を高めることが必要であると考えている。また、学習指導要領では、道徳科の目標として「自己の生き方を考え、主体的な判断のもとに行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを掲げている。そのため「自己を見つめ、物事を広い視野から考え、人間としての生き方についての考えを深める学習」が必要であると考え。

また、学校の内外を問わず、生活を送る上では、相反する道徳的価値について、どちらか一方の選択を求められる場面が数多く存在する。その場合の多くは、答えは1つではなく正解は存在しない。しかしながら、道徳科の授業の中で自己の思いや考えを
表出できず、正解を求めてしまう姿も見られる。

そこで、自己との関わりで考えを深め、道徳的価値に関わる諸事情を多面的・多角的に考えることができるようにし、よりよい生き方を求め、自己の生き方について考えを深めることができるようにしたいと考えた。

(2) 生徒の実態から

本学級の生徒は、友達の良いところや頑張ったところを認め、「がんばったね。」や「すごい。」と声をかける姿がしばしばみられる。他方、6月実施のI-check（東京書籍）の結果から「自分には良いところがありますか」の問いに対し、「ある」と答えた人数が全国平均を12ポイント下回っていることが分かった。また、学校生活において、生徒の中にはこれまでに褒められた経験が少なく、自分を肯定的にとらえることができいないために自己肯定感が低く、自分は級友よりも劣っているといった発言を聞くこともある。

以上のことから友達の良さには気づけても自分の長所や短所に気づけない生徒がいるため、他者と比較せず、自分の良さを大切にする中で、自分の弱いところも強いところに変えていこうという前向きな姿勢で学校生活を送ることができるよう

研究紀要の様式

にしたいと考えた。

3 主題の意味

(1) 主題について

① 自己を見つめる

生徒が自分自身を振り返り、ありのままの自分を認識することである。道徳の授業の中で登場人物の言動等を通して、自分自身と重ね合わせたり、自分の経験を想起したりすることで自分事として考えることができるようになると定義する。

② 自己の生き方について考えを深める

自分は、どのように生きたいか、どのように生きていくべきか、どのような人間になりたいかなど、より深く考えることである。道徳的な価値を自分事としてとらえ、多様な意見に触れながら内省し、自分の行動や未来への思いを育てていくことである。

(2) 副主題について

① 自他の考えを大切にす

発問や話し合いを通して、互いの考えを尊重し合うことで、よりよい人間関係や信頼関係が構築される。このことは、子供たちが安心して自分の意見を表現し、失敗を恐れずに挑戦できる心理的安全性の基盤であると考ええる。

② 自他の考えを大切にす発問・話し合いの設定

子供たちが多様な価値観の中で、主体的に学び、他者と協働して課題を解決する力を育むことが大切であると考ええる。そのためには、自分の意見を尊重しつつ、他者の意見にも耳を傾け、相互理解を深めるプロセスが重要であると考ええる。

4 研究の目標

「自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める生徒」を育てるために、自他の考えを大切にす発問・話し合いの場の設定をした道徳科の授業実践の有効性を明らかにす。

5 研究仮説

自分の経験やその時の感じ方、考え方を引き出す発問を行い、自他の考えを大切にすし、多面的・多角的に考える学び合いを設定すれば、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深めることができるであろう。

6 研究の計画(授業の計画)

(1) 教材名 「葉っぱの切り絵で見えた道」

主題名 自分らしさ【A-(3) 向上心、個性の伸長】

(2) 本時のねらい

自分の弱みを強みに変え、自分を肯定的に受け止め前向きに生きていこうとする主人公の考えに共感し、自分の良さや個性の伸長に努め、自分らしさを大切にして生きていこうとする実践意欲を育てる。

研究紀要の様式

7 指導の実際

段階	学習活動と主な発問・予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価 (◇)
導入	<p>1. 事前アンケートの結果を全体で確認する。</p> <p>(1) あなたの長所 (強み・よいところ) は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい ・集中力がある <p>(2) あなたの短所 (弱いところ) は何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短気 ・人前で話すことが苦手 <p>(3) 自分らしさとは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性 ・自分のいいところ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 「自分らしさ」を大切にするとどのような生き方なのか</p> </div>	<p>○本時のテーマが「自分らしさ」ということを共通理解できるように、事前アンケート結果を全体で確認する。</p> <p>○自分らしさについて問い直しながら、本時の学習を進められるように短所も自分らしさなのか問う。</p>
展開 前段	<p>2. 教材「葉っぱ切り絵で見えた道」を読み、リトさんの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) 就職後、自分の「できないこと」ばかりに目が行くようになったリトさんは、どんな思いで毎日を過ごしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できないことばかりでいららする ・だれよりも劣っている ・言われたことだけを最低限こなそう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(2) リトさんが「できること」を探してみようと決意したのは、どんな考えからだろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできないことでなくできることを探そうという前向きな考え ・自分と同じ悩みをもつ人もいるんだという安心感 ・新しいことに挑戦してみようという期待感 </div>	<p>○リトさんの心情の変化がわかるように、リトさんの人生満足度をグラフ化して板書する。また、もし自分が同じ状況だったらグラフがどうなるか問う。</p> <p>○自分の弱みは見方を変えると強みになることに気付くことができるように、診断を受ける前の低いところに「できないこと」と診断を受けた後のグラフの高いところに「できること」を対比して板書する。</p>
展開 後段	<p>3. 自分の短所や弱いところにどう向き合うかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(1) あなたの短所は見方を変えるとどのように言い換えられますか。【着眼1】</p> </div>	<p>○自分事として短所は長所と捉えることができるように、事前アンケートで挙げた短所を例に挙げる。</p> <p>○新たな気付きを発見することができるように情報共有ソフトを使</p>

研究紀要の様式

<p>終末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・短気：決断力がある ・人前で話すことが苦手：周りを見て行動することができる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(2) 「自分らしさ」を大切にするとあなたの生き方はどのように変わると考えますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・短所を長所に変えて、自信を持って生きていくことができると思う ・自分らしさを進路や就職を決めるときに出せる ・弱いところは強みになることを知り、自分からいろいろなことに挑戦していけそう <p>4. 今日の学習を振り返る。</p>	<p>って、班員からアドバイスをもらう。</p> <p>○本時のテーマを再確認できるように「自分らしさ」とは何かもう一度考える場を設定する。</p> <p>◇自分の弱いところと考えていたことが強みにもなると考え、自分らしく生きていこうとする記述している。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート)</p> <p>○リトさんからのメッセージを読んで、「自分らしさ」を大切にしたい生き方に触れながら余韻をもって授業を終わらせる。</p>
-----------	--	--

8 研究のまとめ

福岡県道徳教育に関する実態調査において、一学期に比べると二学期はほとんどの項目について意識が高まった。特に、項目3「自己を見つめ、自分の個性をもっと伸ばそうとしている」においては、R4県平均を上回っており、取り組みの成果が表れた。今回の授業においても、他者からアドバイスをもらうことで、見方を変えれば自分の短所は長所にもなり得ると感じた生徒が多数いた。さらに、短所を長所に変えることで自信を持てるのではないかと感じた生徒もいた。これらの成果は、他者からの多様な視点から自分をみつめなおすことで、現在の自分を受け入れることができ、自己肯定感を高めることができたから得られた結果だと考えられる。しかし、項目19「人間には弱さや弱さを克服する強さや気高さがあることを信じ、誇りある生き方を目指そうとしている」については意識が下がっていた。今後、道徳教育やキャリア教育だけでなく学校教育全体を通して育成していく必要がある。

9 成果と今後の課題

- 事前アンケートを生徒に見せて、自分筆として捉えることができていた。事前アンケートを提示したときに生徒からの「自分の記述がある」という発言から長所や短所を提示したことは有効性があった。
- 個人で考えたことをさらに深めるために班員の短所をリフレーミングすることで相手に思いやりを持って相手に助言することができた。
- 自己肯定感、自尊感情を高めるためにリフレーミングをして自分で考えたり、互いに考えたりする活動がよかった。

研究紀要の様式

- 学習プリントの工夫やロイノートを使用していくのもよい。
例) 短所を長所にかえる活動と最後に自分へのメッセージ

短所		言い換えると
がんこ	⇒	芯がつよい
(自分へのメッセージ)		

- 交流の時間が短かったため時間をもう少しとることができると考えが深まり、新しい気づきがあったかもしれない。具体的な理由を伝え相手の心に残るように、時間配分や発問数の工夫が必要。
- 付箋を活用し、タブレットを使わずにリフレーミングしてもよかった。
- 生徒の考えを白板に板書した後の教師の反応の工夫やバリエーションを増やすことが必要。
- 生徒の発言や考えから共感的な活動にしていく。
- 短所を見られたくない生徒もいたのではないか。
- 最後の発問は班ではなく「自分らしさ」がテーマのため個人で考えさせてもよかった。

◎ 参考文献

- 『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）特別の教科 道徳編』（文部科学省）
- 福岡県道徳教育推進資料『道徳教育実践ハンドブック vol.2』（平成 30 年 3 月福岡県教育委員会）